

申込不要

来聴歓迎

懇親会あり

11 20

時刻 | 17:00 ~19:00

場所 | 筑波大
総合研究棟A 205号室

演者 | 後藤龍太郎 博士
(東学・大気海洋研・学振PD)

寄生や共生といった生物間の相互作用は、海洋の至る所で見られ、生物の形態の特殊化や種の多様化を促すと考えられています。海洋の主要な生物の一つである二枚貝類でも様々な寄生・共生が知られています。例えば、熱帯のサンゴ礁域に生息するシャコガイ類は光合成を行う褐虫藻を外套膜に共生させ、生活に必要な栄養素の多くを得ています。また、深海に棲むシロウリガイ類などは化学合成細菌との共生により、貧栄養な深海域での有機物獲得を可能にしています。このような相利的な関係の他にも、寄生性の甲殻類などによって、二枚貝が宿主として利用されることもあります。一方、宿主としてではなく、二枚貝自身が他の生物を利用する寄生者・共生者として振る舞う例が知られています。発表者が研究対象としているウロコガイ上科の二枚貝類は、海底に棲む動物の体表や巣穴に居候して暮らすユニークな生態を持っています。熱帯の浅海域を中心に著しい多様化を遂げており、上科全体での宿主の範囲は海底に暮らすほとんど全ての分類群に及びます。本発表では、ウロコガイ類がいかにして宿主との生活に適応し、多様化を遂げてきたのかについて、フィールドワークや分子系統解析から得られた知見を幅広く紹介します。



つくば
進化生態学セミナー

居候する 二枚貝